

第3章 尼崎21世紀の森構想の方向性と将来像

3.1 尼崎臨海地域における新たなまちづくりの要請と方向性

この地域が、失われた自然環境の回復と創造により、魅力と活力のある都市の再生へと展開していくために望まれる社会的な要請を広域的、地域的にとらえ、まちづくりの方向性を次のとおりまとめた。

(1) まちづくりの要請

①まちづくりからの要請

ア 21世紀における新しいまちづくり

尼崎臨海地域のまちづくりについては、社会的潮流の動向と21世紀において環境を重視した新しい都市づくりの方向、大阪湾ベイエリアにおける広域的連携、地域特性を活用した個性の創出、という視点を考慮して、地域の抱える課題に対応した新しい海辺のまちづくりを図っていく必要がある。

大阪湾ベイエリアに対しては、これまでの生産機能や港湾流通機能を中心とした役割から、失われた海辺の豊かな環境を回復 創造するとともに、広大な遊休地等を活用して人が住み 働き 憩い 学ぶなどの新たな都市的機能等（都市型産業や生活 文化 交流機能等）を導入して、人と環境にやさしい環境共生都市を創造することにより、関西圏の発展をリードする先進的なエリアとして生まれ変わることが期待されている。

大阪や神戸のベイエリアの一部では、このような方向での取り組みが既に実践されており、新しい文化交流都市的拠点形成が図られようとしている。

今後このような新しい都市づくりの進展が予想される中で、尼崎臨海地域は、これらの新しい都市的拠点と広域的な連携を図りながらも、個性と魅力をもった地域としての独自性を発揮していくことが求められる。

尼崎臨海地域は、大阪と神戸の中間にあって、取り残されたエリアであるが、尼崎臨海地区（尼崎臨海西部拠点開発事業）の開発整備に着手しており、この開発を契機として、今までの産業中心のまちから、海辺の特性を活かして環境の回復 創造を大胆に図り、環境負荷の少ない省エネルギー 環境循環型機能等、新しい都市的機能を備えた環境共生のまちへと転換しようとしている。

この地域においては、豊かな環境の回復 創造を基調とした海辺の新しい環境共生のまちづくりを図ることにより、21世紀において大阪湾ベイエリア地域がよみがえり、活性化していくことが期待されている。

イ 尼崎臨海地域の都市再生

尼崎臨海地域に立地する重厚長大型産業は、近年停滞したままであり、一部に低未利用地の発生が見られるなど、従来型産業を中心としたまちのあり方に行き詰まりが見られる。

この地域においては、地域を改変する抜本的な施策が求められており、環境の世紀といわれる21世紀において、将来のニーズに対応した新しい都市基盤を整備するとともに豊かな環境を大胆に創造することにより、環境をテーマとした新たな都市へと再生し、公害のまちという定着した地域イメージから脱却していくことが求められている。

既存の人的資源や産業技術の集積を活かしながら環境創造という豊かな環境インフラの形成を契機として、既存産業の高度化を進めるとともに、今後の成長が期待される新たな産業を導入・集積することにより、産業都市として活性化させる。また、多様な複合都市機能を積極的に導入していくことにより、新たな都市的拠点を形成し、産業遺産の保全と活用など生活文化交流が活発な都市活動を展開する魅力ある都市へと再生を図っていく必要がある。

豊かな環境インフラの創造は、地域のポテンシャルを高め、商業・業務・文化・交流・情報等の多様な都市機能の導入を促進し、魅力あるまちづくりを大きく推進するばかりではなく、産業面においても操業環境を高め働きやすい職場環境を創り出すとともに、雇用の創出も期待できることから、既存産業の高度化や、今後の成長分野としての先端産業や環境関連産業、IT関連産業などの将来有望産業の導入・集積により産業都市として活性化し、産業と調和した魅力ある多様な都市としての再生が期待される。

②環境面からの要請

ア 瀬戸内海・大阪湾における環境回復・創造の拠点

閉鎖性水域である瀬戸内海・大阪湾においては、自然の回復・創造や多島海の美しい景観の再生、水域の環境改善などが求められており、とりわけ開発が進んだ大阪湾ベイエリアにおいては、失われた自然の回復や新たな創造に対する要請が高く、環境の回復・創造に向けた積極的な施策としてのリーディングプロジェクトの導入が必要である。

この中でも、大阪湾奥部に位置する尼崎臨海地域は、環境レベルが低いいため、環境回復・創造に向けた施策を重点的に展開することによる改善効果は高いと考えられる。

この地域において、瀬戸内海・大阪湾の環境回復・創造を先導することにより、かつての美しい景観の回復・創造が図られ、生き物を育む水と緑が豊かな自然生態系が回復し、自然浄化能力が高い新たな拠点として生まれ変わることが期待される。

イ 尼崎臨海地域の環境改善

尼崎臨海地域は、重厚長大産業が集積立地する工業地帯として、わが国の産業や経済の高度成長を支える役割を担ってきたが、国道43号・阪神高速神戸線とともに公害問題が深刻化し、公害のまちとして全国的に知られるようになり、地域イメージは大きく低下していた。

国道43号・阪神高速神戸線や工場に対する公害対策への取り組みにより、大気質や水質等の環境の質は相当向上しているものの、さらに改善が求められる。また、都市環境面でも、元浜緑地（大気汚染対策緑地整備事業3.8ha）が整備されたものの、都市気象を緩和させるまでの公園や緑が少ない。また、市民が憩い・ふれあえる水辺も「リフレッシュポイントあまがさき」の運河、水路の整備をしているが、全体としてはわずかで潤いに欠けている。

産業の停滞も見られるこの地域においては、積極的に環境の改善を図っていく意義はきわめて高い。環境回復・創造の大胆な施策を実施して、かつての公害のまちから環境創造のまちへと地域イメージを刷新していく必要がある。

大阪湾奥部に位置する尼崎臨海地域を環境創造の新しいまちとしてよみがえらせ、瀬戸内海における環境面での先進地域として寄与していくことが期待される。

(2) 尼崎臨海地域のまちづくりの方向性

以上の要請からまちづくりへの方向性を整理すると

- 1) 瀬戸内海 大阪湾における環境回復 創造の拠点として、また21世紀における大阪湾ベイエリアの環境共生都市づくりを目指す新しい拠点として、失われた環境の回復 創造により都市の再生を図る。

環境の世紀といわれる21世紀に相応しい、環境負荷の少ない省エネルギー 循環型都市を目指し、海辺の特性を活かして自然環境の回復 創造を大胆に進めることにより、瀬戸内海の美しい景観を再生するとともに、人と自然との良好な共生関係をもって持続的発展が可能な都市に再生する。

- 2) この地域が有する河川や運河、湾内の豊富な水環境を活用して、水と緑の豊かな自然環境を積極的に創出し、地球環境時代にふさわしく人と自然が共生する新しい環境創造都市によみがえらせることを基本的考えとして、公害のまちから環境のまちへ脱皮していく。

- 3) 豊かな環境インフラの創造により、人々が住み、集い、交流するアメニティの高い生活空間を創出するとともに、既存の人的資源や産業技術の集積を活かし、自然環境と共生した多様な産業活動の展開と環境関連産業等の新たな産業分野の導入を図り、魅力と活力あるまちづくりを目指す。

以上のことから、尼崎臨海地域の方向性として、「**自然(水と緑)と人が共生する環境創造のまちづくり**」を基本として、都市再生の取り組みを進める。

環境面からの要請

【広域的視点】
瀬戸内海・大阪湾の環境回復・創造の拠点
 瀬戸内海の美しい景観の再生
 生き物を育む海辺・きれいな豊饒の海の回復
 水と緑の新たな環境創造

瀬戸内海・大阪湾の新たな環境創造拠点へ

【広域的視点】
21世紀の新しいまちづくり
 自然（水と緑）と人がふれあう豊かな環境共生都市
 大阪湾ベイエリアにおける新たな海辺のまちづくりと広域的連携
 豊かな心を育む文化交流都市
 環境負荷の少ない省エネルギー・環境循環型都市
 環境に貢献できるライフスタイルの構築

水と緑の環境豊かな環境循環型都市へ

【地域的視点】
尼崎臨海地域の都市再生
 環境をテーマとした、魅力と安らぎのある新しいまちづくり
 従来型産業から環境関連等、環境に貢献できる新たな産業への展開
 豊かな環境の創造と複合都市機能の導入
 産業遺産の保全、活用

魅力と活力あるまちへ

自然（水と緑）と人が共生する環境創造のまちづくり

尼崎の魅力の発信「公害のまちから環境のまちへ」

【地域的視点】
尼崎臨海地域の環境改善
 大阪湾奥部の環境のレベルアップ
 環境の先進地域への転換による、瀬戸内海の環境改善への寄与
 国道43号・阪神高速神戸線沿いの環境改善

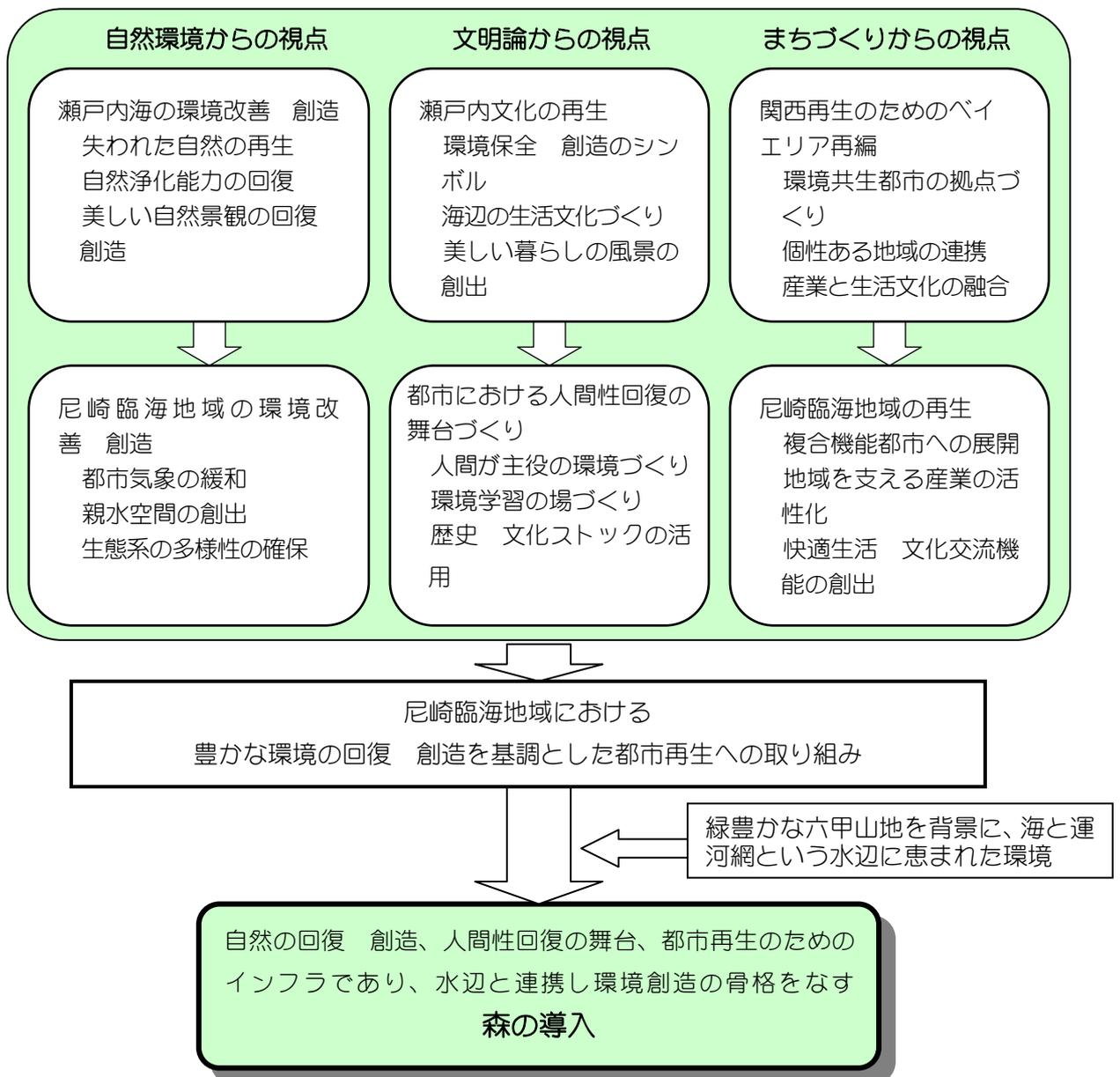
尼崎臨海地域への要請と方向性

3.2 尼崎臨海地域の再生のための視点とねらい

尼崎臨海地域が抱える課題を踏まえ、失われた自然環境の回復と創造により、ゆとりと潤いのある快適な都市環境を創出し、魅力と活力のある新しい都市の再生へと展開していくことが必要であり、また大阪湾ベイエリアの拠点の一つとして他地域との有機的な連携を果たすことも必要である。同時に現状からの視点だけでなく、歴史的、文明論的な広い視野から見た検討が必要であることから、以下の3つの視点から尼崎臨海地域の環境再生とまちづくりに対する取り組みを考える。

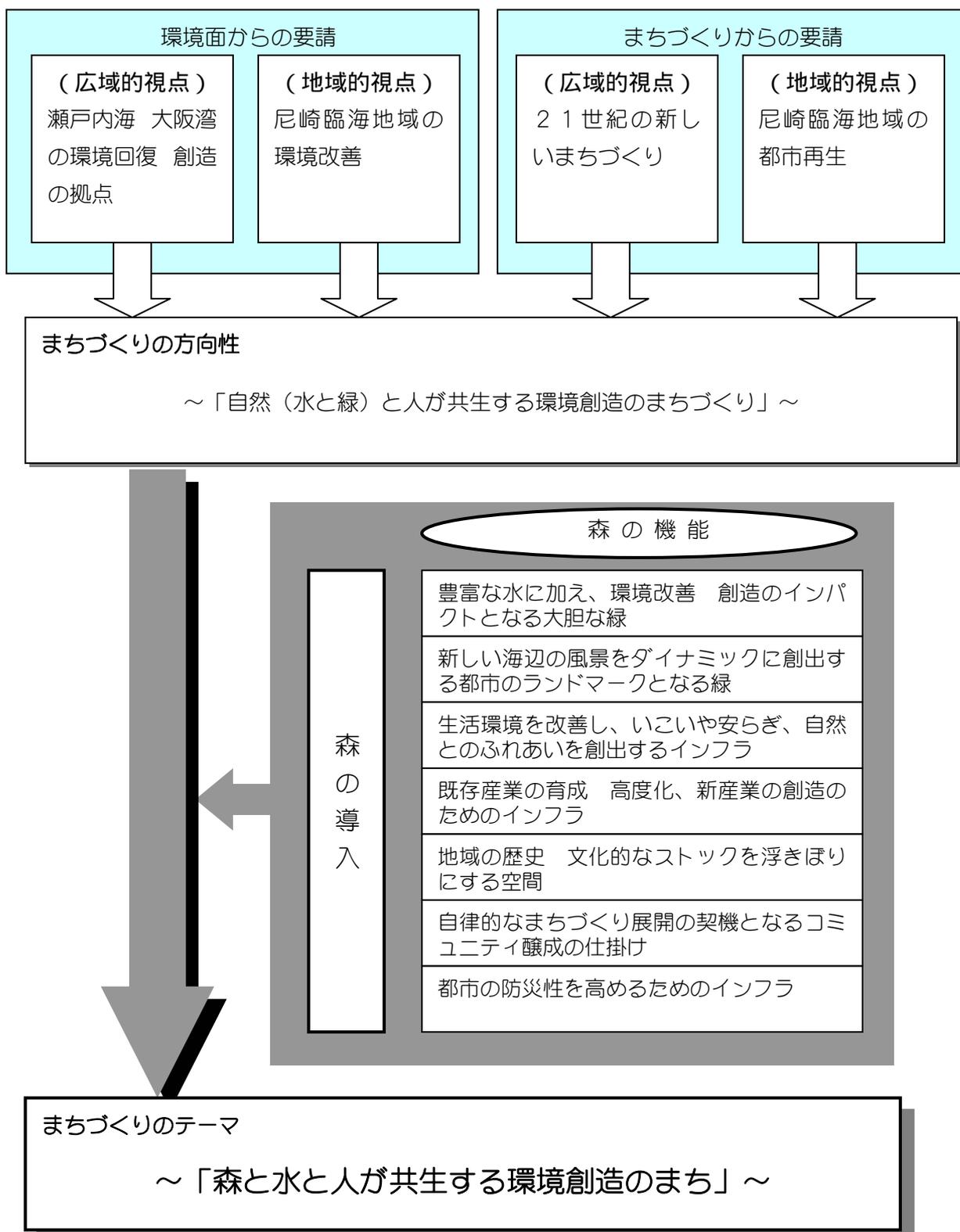
- 自然環境面からの視点
- 文明論からの視点
- まちづくりからの視点

都市の再生を行うにあたって、尼崎臨海地域のまちづくりのねらいは次のとおりであり、尼崎臨海地域の再生には森の導入が相応しい。



3.3 尼崎臨海地域のまちづくりのテーマ

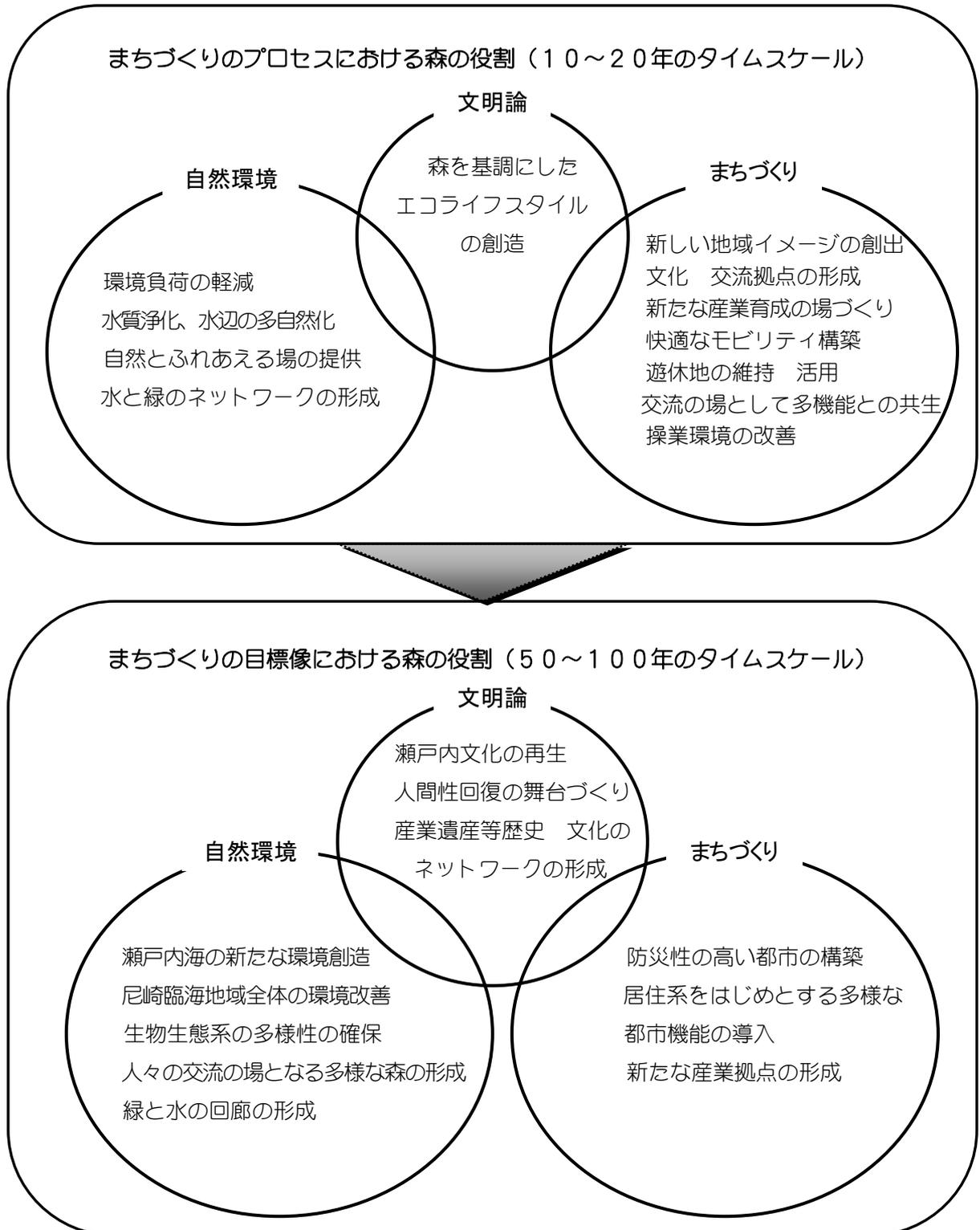
尼崎臨海地域の失われた自然環境と都市環境の回復と創造、魅力と活力のある都市の再生のための社会的要請とまちづくりの方向性に対し、自然環境、文明論、まちづくりの3つの視点から、その実現に向けた方策として森の導入が導かれた。以上の検討した内容に基づき尼崎臨海地域におけるまちづくりのテーマは次のとおりとする。



【森の役割】

森の導入が尼崎臨海地域において果たす役割は、大きく10年～20年の短期的なもの、50年～100年の長期的なものに分類される。

森は短期的、長期的なまちづくりにおいて以下に示すような役割が期待される。



3.4 尼崎臨海地域の目指すべき将来像

尼崎臨海地域の、自然環境と都市環境の回復と創造、魅力と活力のある都市の再生に向けた方策として森の導入が導かれ、まちづくりのテーマは『**森と水と人が共生する環境創造のまち**』とした。これを受け、尼崎臨海地域の目指すべき将来像は次のとおりとする。

